



## 新米のその一粒の光かな

たかはまきよし  
高浜 虚子

秋は実りの季節です。「天高く馬肥ゆる秋」です。食べ物がおいしく感じる秋は、食べ過ぎに注意が必要です。

秋を天高く感じるのには理由があります。秋になると空気中の水分が減り、ちりやほこりも少なくなり、澄んだ青空が広がります。長崎県からは、大隅の山並みや海原遠く南の島々が近くにくっきり見えます。

S M A Pの歌でヒットした「世界に一つだけの花」。「ナンバーワンにならなくてもいい もともと特別なナンバーワン」と、個性を大切に自分らしく生きることの大切さを歌っています。その歌詞から、競争することや挑戦にも見えますが「その花を咲かせることだけに一生懸命になればいい」と、一生懸命にならなければ美しい花は咲かない、現状に満足しては、個性は開花しないと応援してくれている歌でもあります。

「この国には何でもある。だが、希望だけがない」。村上龍むらむらの小説「希望の国のエクソダス」に登場する少年の言葉です。希望は時代を映し出します。ギリシャ神話では、パンドラの開けた小箱から、さまざまな災いがこの世界に飛び散り、最後に希望だけが残りました。

先行き不透明な時だからでしょうか。「希望」という言葉が題名に入ったCDや本が目につきますが、未来に光を見いだそうという励ましの曲や内容の本が多いといわれています。

平成最後の今年、特に、台風、豪雨、地震と自然災害が多発しています。苦しい時代を乗り越える時、最も大切にしなければならぬ言葉が「希望」かもしれません。人類の歴史、時の流れに寄り添ってきた希望ですが、そのありようは時代や社会、人の心を反映しています。

子どもが減り、高齢者が増え、生活の質の切り下げを強いられる日本は、衰退の途をたどるとの悲観論も聞かれます。いよいよ指宿市の人口も4万人を切ってきます。だからこそ、今、20年後の指宿の未来図を描かなければなりません。

「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをゆかいに、ゆかいなことをまじめに」。作家の井上ひさしいの上さんの言葉です。新米のその一粒の光や、人の心を感じするには、感度の優れたアンテナが必要です。

指宿の特別なナンバーワンを生かすために、一生懸命になる時が「今」ではないでしょうか。

事の本質に迫り、深く考えていくことが大切です。



指宿市長  
とよづめ えつお  
豊留 悦男